

大問一 問(一)

基準 配点： 1点×5

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

(1) 赴任

(2) 感銘(肝銘)

(3) 強烈

(4) 先駆者

(5) 達者

大問一 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 13点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

自己の生活体験から、

B

国家は同一言語を使用する

C

同一国民だけで成り立つもの

D

ではないことを知っていたから。(50字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十字以内 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 自己の生活体験から…3点

・西川自身の国外での生活体験に基づいたものだとこのことを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 国家は同一言語を使用する…3点

・「国民国家」のあり方として、同一言語を使うということを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 同一国民だけで成り立つもの…3点

・「国民国家」のあり方として、同一国民(本文「同じ血を分かちもち」)であるということの説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D ではないことを知っていたから…4点

・要素Aの結果、要素BとCでないことを理解していたということの説明していないものは、要素D加点数なし

大問一 問(二)

形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

国民とは、はじめから自身でその認識をもつわけではなく、

B

他者から

C

国家のイデオロギーを与えられる中で、

D

自覚のないまま国民という立場に置かれるということ。(74字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十五字以内 三十七字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 国民とは、はじめから自身でその認識をもつわけではなく…4点

・国民であるという認識ははじめからもっているものではないということの説明して
いないものは、要素A加点数なし

■要素B 他者から…4点

・要素Aから、他者との関係性があるということを説明していないものは、要素B加
点数なし

■要素C 国家のイデオロギーを与えられる中で…4点

・要素Bによって国家のイデオロギーを与えられるということを説明していないもの
は、要素C加点数なし

■要素D 自覚のないまま国民という立場に置かれるということ…4点

・国民ということは無自覚的なものであるということを説明していないものは、要素A
加点数なし

大問一 問四

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 11点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

日本の思想と文学を支える

B

日本語に

C

自らの存在根拠を見出すというふるまい。 (35字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…三十五字以内 十七字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 日本の思想と文学を支える…3点

- ・要素Bとの関係で、「日本語」が日本の思想と文学を支えていることについて説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 日本語に…4点

- ・江藤の「ふるまい」の根拠に「日本語」があることについて説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 自らの存在根拠を見出すというふるまい…4点

- ・要素AとBが自分自身の存在根拠であるということについて説明していないものは、要素C加点数なし

*ここは江藤淳のふるまいを説明すればよい。酒井直樹の批判を関連させる必要はない。

大問一 問(五)

形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 15点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A
不安を自覚しながらも

B
両国の中間的な位置に立ち、

C
どの社会も文化も対等なものとして認め、

D
それぞれの良さを見出すというあり方。(60字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 不安を自覚しながらも…3点

・ 自国と他国の間には不安を感じることがあるということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 両国の中間的な位置に立ち…4点

・ 自国と他国の「はざま」に立るといふことについて説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C どの社会も文化も対等なものとして認め…4点

・ 要素AとBのあり方によって両国が対等に見えてくるということを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D それぞれの良さを見出すというあり方…4点

・ 要素Cによって両国の良さを見出すということを説明していないものは、要素D加点数なし

大問二 問(一)

基準 配点… 2点×3

■模範解答 ※解答例通り (辞書の意味に当てはまるものを正解とする)

- (1) 言い争う。
- (2) 愛想なく。
- (3) 心の底にひそむ意地。

大問二 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

早く着きたいのに、

B

到着するとすぐに早く帰りたくなるという

C

相反する感情を抱くから。(40字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…四十字以内 十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 早く着きたいのに…3点

- ・父のところに早く着きたい気持ちをもっていることを説明していないものは、要素A加点なし

■要素B 到着するとすぐに早く帰りたくなるという…3点

- ・要素Aに反して、着いた途端に帰りたくなるという気持ちになることを説明していないものは、要素B加点なし

■要素C 相反する感情を抱くから…4点

- ・要素AとBは相反する感情であることを説明していないものは、要素C加点なし

大問二 問(三)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

父の思いを汲み取った上で、

B

生活費の入った封筒を

C

父からさり気ない形で受け取る機会をつくるため。(46字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十文字以内 二十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 父の思いを汲み取った上で…4点

- ・父の思いを理解しているということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 生活費の入った封筒を…4点

- ・封筒とその中身について説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 父からさり気ない形で受け取る機会をつくるため…4点

- ・要素Bの封筒を受け取るための行為であることを説明していないものは、要素C加点数なし

*父の心情を軸にした答案が多い可能性があるが、要素を言い当てていければ可とする。

大問二 問(四)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

気弱な継母に育てられながらも、

B

父に向ける行為に見られる

C

時子の強さは

D

実の母親の性質を受けているように感じられるということ。

(60字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 気弱な継母に育てられながらも…4点

・時子が気弱な継母に育てられたことについて説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 父に向ける行為に見られる…4点

・時子が吾郎を父のところに行かせるという行為について説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 時子の強さは…4点

・時子の性格の強さを示しているということについて説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 実の母親の性質を受けているように感じられるということ…4点

・時子と実母の関係性について説明していないものは、要素D加点数なし

大問二 問五

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

性格が違いながらも

B

身を寄せ合って生きてきた異母姉弟は、

C

子どもを棄てるような父親らしからぬ父との

D

血のつながりによって結ばれているということ。(69字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 性格が違いながらも…4点

・時子と吾郎の性格の違いについて説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 身を寄せ合って生きてきた異母姉弟は…4点

・要素Aでありながら身を寄せ合って生きてきた二人について説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 子どもを棄てるような父親らしからぬ父との…4点

・父は子どもを棄てた存在であるということを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 血のつながりによって結ばれているということ…4点

・要素Bは父との血のつながりによるということを説明していないものは、要素D加点数なし

第二問

(一) (1) 現代語訳の問題

- 問題18ページ、傍線部(1)を現代語訳する問題
- 形式上の不備
 - ・文末表現…不問
 - ・句点の扱い…不問

基準 配点…4点

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A B C

きつと この歌の意味 であるにちがいない

- 採点方法…各要素単独採点
- 字数…制限なし

- 要素A きつと ①点
 - ・同意例…きつと・確かに・必ず

- 要素B この歌の意味 ①点
 - ・直前の歌の内容・心情を伝えたいという意図
 - ・同意例…「これの…この…この歌の」
「意図・意味」 など
 - ・不可例…「心・心情」のままものは不可

- 要素C であるにちがいない ②点
 - ・断定+推量・当然
 - ・同意例…断定「だ・で・である・なのだ」
推量・当然「だろう・にちがいない・はずだ」

(二) 理由説明の問題

■問題18ページ、傍線部(ア)の理由を説明する問題 傍線部の後の和歌をふまえていること。

■形式上の不備

- ・文末表現:「〜から・ため・ので。」など
- ・句点の扱い:不問
- ・字数:80字以内(字数不足でも要素ごとに採点)

基準 配点:8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

B

「手紙を真に受けてやって来て、討たれて後悔するな」という和歌を暗示する、五つに折った箸

C

D

E

を送り、手紙の内容は嘘であり、危険であることを道命法師に知らせるため。

■採点方法:各要素単独採点

■要素A 「手紙を真に受けてやって来て、討たれて後悔するな」という和歌を ①点

- ・和歌(遣るはしを〜)をふまえていることがわかれば可。内容に言及はなくて良い。
- ・既存の歌であって和泉式部が詠んだ歌ではない点に注意。和泉式部が詠んだ内容になっっている解答は①点とする。

■要素B 暗示する、五つに折った箸を送り ①点

- ・五つに折った箸で、和歌を暗示している・連想させようとしていることがわかれば可。

■要素C 手紙の内容は嘘であり ②点

- ・和泉式部が道命法師に送った手紙は、保昌に書かされたものであることがわかれば可。
- ・同意例:保昌がだまそうとしている・偽の手紙

■要素D 危険であることを ②点

- ・道命法師が来たら、討たれる・危険であることがわかれば可。
- ・同意例:殺される・危険・危機 など

■要素E 道命法師に知らせるため ②点

- ・「道命法師」①点に「教える・知らせる」①点

・文末「ため・ので・から」がないとマイナス①点

・同意例…「教える・知らせる」は「来させないようにする・忠告する・警告する」なども可。

(四) 理由説明の問題

■問題19ページ、傍線部(ウ)の行動の理由を説明する問題

↓傍線部前の「まことの鬺売り」寝言をし給ふらん」をふまえて解答する。

■形式上の不備

- ・文末表現…から…ので…ため など(要素E参照 ないものは減点)
- ・句点の扱い…不問
- ・字数…90字(字数不足でも採点要素で加点する)

基準 配点…10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

B

C

軍の 男が鬺売りならば、これほどの歌の知識はないだろうし、初めて上洛した宇都宮弾正が、将

D

E

居所で連歌の席に交じることを一大事だと思って思い悩むために、寝言に言うのも道理だ
と思っただから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 男が鬺売りならば、これほどの歌の知識はないだろう ③点

- ・「鬺売り」の立場①点と、「歌の知識が不釣り合い」②点であることがわかれば可。
- ・同意例…鬺売りにしては歌の知識がありすぎる
豊富な歌の知識が鬺売りにふさわしくない など

■要素B (初めて上洛した) 宇都宮弾正が ①点

- ・「宇都宮」「弾正」のどちらか。大名宇都宮弾正であると信じたことがわかれば可

■要素C 將軍の居所で連歌の席に交じることを一大事だと思って思い悩むために、 ②点

- ・都(將軍の前で)で連歌を詠むことにプレッシャーを感じていることがわかれば可。
- ・同意例…緊張・一大事・(連歌のことを)考え続けている

■要素D 寝言に言う ②点

- ・「寝言を言う」
- ・同意例…鬺売りの口上(はし・鬺買うえい)のようなことを言う

■要素E 道理だと思ったから。②点

- ・ 男の言い分を信じたことがわかれば可 (①点)
- ↓ 女が自分で理由を押し量ったのではない点に注意。
- ・ 文末は「から・ため・ので」など。(①点)
- ・ 同意例… 本当だと思ったから・納得したから・信じたから など

(五) 本文の趣旨を踏まえた内容説明の問題

■問題19ページ、傍線部(エ)の孔子の言葉を本文の趣旨をふまえて説明する問題。

■形式上の不備

- ・文末表現…くこと
- ・句点の扱い…不問
- ・字数…50字(字数不足でも採点要素で加点する)

基準 配点：8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A B C D

金銭的な財産は尽きることはあるが、身に付けた知識は尽きることなく身を助けるものだとしよう。

しよう。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 金銭的な財産は ②点

- ・(物理的に蔵の中に蓄える有形の) 金銭的財産。
- ・同意例…金・財産・財力

■要素B 尽きることはある ②点

- ・なくなることがある、ということ
- ・同意例…朽ち果てる・なくなる・底をつく・失う など

■要素C 身に付けた知識は ②点

- ・(無形で目には見えない) 知識・教養
- ・同意例…歌の知識・歌道の心得・連歌の知識 も可とする。

■要素D 尽きることなく身を助けるものだということ ②点

- ・「なくならない」①点 + 「願いをかなえる・身を助ける・役に立つ」①点
- ・本文の歌の知識の徳は、「当座の恥を隠す」「富み栄えて子孫繁栄」など恋の成就にとどまっていないので、恋の成就だけの解答は△①点
- ・文末は「こと」↓不適當な文末は減点①点

大問四 問(一)

■形式上の不備

- ・文末表現…不問
- ・句点の扱い…不問

基準 配点…各2点

■模範解答

- (1)ここをもって／ここをもって
- (2)これによりて／これによって／これによつて／これにより／これより

※いずれも可

大問四 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現…不問。
- ・句点の扱い…不問。

基準 配点…8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A	その憂慮が大きくなればなるほど、	B	だからこそ彼の著作物は	C	ますます	D	偉大なものにな
	った。		ます				った。

■採点方法…要素Aと要素Cは連動採点。要素Bと要素Dは単独採点。

■要素AとC その憂慮が大きくなればなるほど……ますます…4点

- ・「憂慮」「心配」「懸念」「悩み」「懸念」など、「憂ひ」の訳としてふさわしければ可。
- ・「大きくなればなるほど……ますます」を表現できていれば可。
- ・同意例…その悩みが大きくなるにつれて、……いっそう…その心配が大きかったので、……ますます

■要素B だからこそ彼の著作物は…2点

- ・「故に」は「だから」「よって」「したがって」「そのために」「そうしたわけで」「それにともなって」などでも可。直前の句の末尾が「……ので」「……から」などになっている場合も、「故に」が訳出されているものと見なしてください。
- ・「其の作」は「彼の作品」「彼の著作」「彼の書物」「彼が残した本」なども可。「孔子の著作」「孔子の著書」なども可。
- ※「其の作」＝「経」「史」＝「書物」だとわかっていることが大事。

■要素D 偉大なものになった…2点

- ・「……なものになった」を表現できていれば可。
- ・「大」は、「偉大な」など、優れた書物の形容としてふさわしければ可。
- ※「大」は書物の分量ではなく、内容についての形容。「多くなった」は不可。
- ※「大きくなった」はそのまま過ぎて不可。
- ・同意例…優れたものになった・素晴らしいものになった

大問四 問(三)

■形式上の不備

- ・文末表現…不問
- ・句点の扱い…不問

基準 配点…8点

■模範解答 ※各要素歴史的かなづかいでもよい。

A

B

これけいしのかねてこれをゆうする ところのものなり

■採点方法…各要素単独採点

■字数…なし

■要素A これけいしのかねてこれをゆうする…4点

- ・「…:…これをいうする」「これある」も可。
- ・「…:…これをいふする」は不可。
- ・「きょうし」は**1点減**

■要素B ところのものなり…4点

- ・例外なし

大問四 問(四)

■形式上の不備

- ・文末表現…「ため」でなければ、1点減。
- ・句点の扱い…句点の扱いは1点減。ただし答案二十字で句点がない場合は字数オーバー扱いで全体0点。

基準 配点…8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

B

小人に対して 善を勧め悪を懲らしめるため。

■採点方法…各要素単独採点。

■字数…二十字

■要素A 小人に対して…4点

・全体として「小人を憂えたため」という点が表現できていれば可。「小人を憂える」とは、彼らが道徳に反する行動(＝悪事)をするのを憂える、という意味。

※「小人」さえあれば4点というわけではない。

※「小人を憂えたため」は、そのまま過ぎて**不可**。

※「小人を心配したため」は、右記の意味合いを理解していないので**不可**。

■要素B 善を勧め悪を懲らしめるため…4点

・「(小人に)善を勧め悪を懲らしめるため」「(小人を)悪に進ませないため」という意味合いがわかっている場合**可**。

※「君主や父を殺して秩序を乱させないため」は、「悪」を限定し過ぎているので**2点**。

・同意例…悪に進ませないため・道徳に背かせないため

大問四 問(五)

■形式上の不備

- ・文末表現：「ということ」「こと」「でなければ、1点減。
- ・句点の扱い：句点の抜けは1点減。ただし答案六十字で句点がない場合は字数オーバー扱いで全体0点。

基準 配点：12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 経書は永遠不変の法を述べ、史書は一代の実録である点で体裁は異なるが、
B 経書は「万世の常法」だとわかっていけば可。
C 経書は史書がな
D ば毀誉褒貶を実証できず、史書は経書がなければ善悪の軽重を斟酌できない点で互いに助け合っ

ているということ。

■採点方法：各要素単独採点。

■字数：百字以内

■要素A 経書は永遠不変の法を述べ…3点

- ・経書は「万世の常法」だとわかっていけば可。
- ・「経」は「経」のままでも可。
- ・「万世の常法」のままの場合**不可**。注があるので。
- ・同意例：経書は普遍的な道德法則を記し

■要素B 史書は一代の実録である点で体裁は異なる…3点

- ・史書は「一代の実録」であり、その点で経書と史書は体裁（形式）を異にすることを踏まえていけばよい。
- ・「史」は「史」のままでも可。
- ・「一代の実録」のままでも可。
- ・同意例：史は一時代の実録であり、その点で形式を異にする

■要素C 経書は史書がなければ毀誉褒貶を実証できず…3点

- ・経書は史書がなければ、何を褒めて何を貶めるかの実例（具体例）を出すことができない、という意味。これを何らかの形で表現できていればよい。
- ・「褒貶を証す」はそのまま過ぎるので**不可**。
- ・同意例…経書は史書抜きでは評価の実例を示すことができず、

■要素D 史書は経書がなければ善悪の軽重を斟酌できない点で互いに助け合っている…3点

- ・史書は経書がなければ、何が軽く何が重いのかを斟酌できない、という意味。同じ善でも、道端のゴミを拾うような、ちよっとした善と、自分の命を捨てて大義に殉ずるような最上の善とがある。悪もまた然り。そのような善悪の軽重を、あれこれ事情を考えて適切に処理する、ということ。
- ・「軽重をはかる」はそのまま過ぎるので**不可**。
- ・同意例…史書は経書なしでは善悪の軽重を評価できない点で相互補完的關係にある